

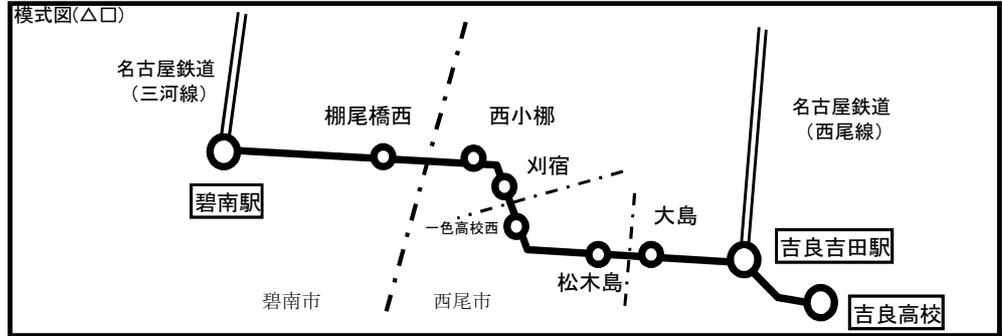
令和元年度補助系統別事業評価票(ふれんどバス①線)

1. 補助系統の概要(△)

系統名	運営主体	運行事業者	区間	キロ程	運行回数	関係市町村	
ふれんどバス①	名鉄バス㈱	名鉄バス㈱	吉良高校～碧南駅	15.9 km	12.4 回	西尾市、碧南市	
細系統	(主系統)	名鉄バス㈱	名鉄バス㈱	吉良吉田駅～碧南駅	15.9 km	8.3 回	西尾市、碧南市
	(吉良高校始発)	名鉄バス㈱	名鉄バス㈱	吉良高校～吉良吉田駅～碧南駅	17.3 km	4.1 回	西尾市、碧南市
				km	回		

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)

接続の状況(△□)
<p><接続する系統></p> <p>名古屋鉄道 三河線 名古屋鉄道 西尾線 名古屋鉄道 蒲郡線</p> <p><接続される系統></p> <p>名鉄東部交通バス 一色線 名鉄東部交通バス 寺津線 名鉄東部交通バス 平坂・中畑線 いこまいカー(デマンド乗合タクシー) いっちゃんバス</p>



2. R1年度の運行状況

事業実施の適切性	
計画どおり運行されたか(△)	
評価	計画どおりか。そうでない場合は理由
A	所定の事業計画通りの運行が実施された。

- 評価の基準
- A → 事業計画どおりの運行回数が確保されている場合
 - B → 車両故障等運行事業者の責にすべき事由により、運休(一部区間の運休を含む)が生じた場合
 - C → 系統廃止に至る場合

《参考数値》 主要指標の推移(△)					
年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
年間利用者数【人】				177,062	176,380
平均乗車密度(実績)				3.4	4.9
輸送量(実績)				57.4	60.7
収支率(実績)				28.48	36.19

目標・効果達成状況			
評価	目標の達成状況(△)	運営主体の所見、理由分析、認識(△)	市町村の所見、理由分析、認識(□)
A	目標	利用者数の対目標値は105.1%と目標達成。ふれんどバス①および②の合計では対目標値102.9%。開業当初から昼間帯の生活利用が伸び悩んでいる。	市町村名: 碧南市 課題とされる昼間帯の利用促進について、バス利用者の要望を反映した、より一層の取組みが必要だと思われる。
	結果		
	特記事項		
評価の基準	市町村の所見、理由分析、認識(□)	市町村の所見、理由分析、認識(□)	市町村の所見、理由分析、認識(□)
A	→ 年間目標利用者数を達成できた場合	市町村名: 西尾市	市町村名:
B 1	→ 年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の75%以上の利用があった場合	ふれんどバス全体としては、通勤・通学利用者を中心に利用者数の堅調な推移が続いており、沿線地域の広域的な移動手段として欠かせない路線である。通勤・通学利用者の更なる大幅な増加は見込まず、昼間帯の利用促進が重要となるため、運行事業者や地域住民と一体となった取組みを進めていきたい。	
B 2	→ 年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の50%以上の利用があった場合		
C	→ 年間利用者数が目標の半数に満たなかった場合		

複数市町村を跨ぐ系統としての役割					
指標(市町村を跨いでの利用)	利用状況及び所見(△)	住民の利用状況(□)	住民の利用状況(□)	住民の利用状況(□)	住民の利用状況(□)
市町村を跨ぐ利用者数(△)	15,810 人/月	市町村名: 碧南市	市町村名: 西尾市	市町村名:	
全利用者に占める率(△)	95.6 %	住宅地と駅、住宅地と学校を結ぶバスとして、市を跨いだ通勤・通学に大きな役割を果たしていると考えられる。	地域外からの一色高校、吉良高校、碧南高校への通学利用の他、沿線地域の住民が鉄道を利用する際に吉良吉田駅・碧南駅までの広域的な利用が見られる。		
特記事項	令和元年5月の乗降調査より算出				

《参考数値・情報》 その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報	
運営主体(断面輸送量、競合系統合算断面輸送量、主な停留所乗降者数等)(△)	沿線市町村(沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載)(□)
停留所乗降者/日: 吉良高校118人、吉良吉田駅160人、一色町公民館45人、一色高校西202人、碧南駅241人	

3. R1年度の取組状況

直近の事業評価結果(△)		運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
B	事業評価を踏まえた取組	沿線高校の利便性向上のため、鉄道との乗り継ぎを考慮したダイヤ改正を行った。	市町村名： 碧南市 市ウェブサイトや夏休み期間等のバス利用促進事業の周知を行った	市町村名： 西尾市 ・福祉分野と連携し高齢者を対象とした公共交通に関する出前講座を実施 ・総合時刻表を作成配布 ・個人に合わせた「マイ時刻表」の作成 ・Googleマップへの路線情報反映 ・「一色高校西」バス停横に待合スペース、ベンチを設置 ・バス利用者を対象とした沿線施設の割引サービスを実施 ・沿線高校の通学時間に合わせたダイヤ改正を実施	市町村名：
改善点とした事項(△) 利用者ニーズに合わせた対応や、昼間帯の利用を促進させる取り組みが必要。		沿線で行われる、お祭りなどのイベントに対応し、利用者の利便向上に努めている。	市のイベントでバスを展示し、乗り方講習や、子供用制服を着て写真撮影等を行った。	沿線の市長、経済団体、学校、地域住民、運行事業者による運行協議会を開催し、意見交換等を行った。	
関係者の連携等(△□)	その他の取組	事業者と西尾市、碧南市との情報共有の実施。			

4. 今後の課題

課題と認識している事項			
運営主体(△)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
通勤・通学時間帯に利用が集中している	市町村名： 碧南市 市補助金額の算定について、運営主体の経営努力が反映されるような仕組みが必要である。また、日中の利用客の増加を促すような取組が必要である。	市町村名： 西尾市 朝夕の通勤・通学時間帯以外での利用が少ない。地域の関心が高くないため、地域住民を巻き込んだ取組によりマイバス意識を高めていきたい。	市町村名：

5. 今後の取組

課題に対応した取組、その他の利便性の向上、利用促進の取組				
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
R2年度、R3年度に行う取組	通勤・通学時間帯に利用が集中することから、ICカードの導入を図り乗降時間の短縮による利便性向上を図りたい	市町村名： 碧南市 駐輪場の場所や割引制度等について市ウェブサイトで紹介する。	市町村名： 西尾市 ・イベントや交通安全運動と連携した乗り方教室の実施 ・公共交通マップ、総合時刻表の作成 ・個人のおでかけに合わせたマイ時刻表の作成や乗り方案内等の出前講座 ・ICカードやバスロケの導入 ・増加傾向にある外国籍住民を対象にした多言語対応のパンフレット配布	市町村名：

注：評価にB、Cがある系統(市町村にあっては、目標の達成状況に関する評価がB、C)、又は平均乗車密度が3.0を下回る系統については、具体的な取組内容と収支率の目標値を記載すること。

6. 地域公共交通網形成計画に記載した補助系統の目標と評価

	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
目標	市町村名： 碧南市 未策定	市町村名： 西尾市 ふれんどバス全体の年間利用者数270,000人	市町村名：
自己評価		碧南高校への延伸や沿線高校の時間割に合わせたダイヤ改正等の利便性向上により、通学定期利用者の底上げにつながっており、安定的に300,000人程度の利用が見込める路線となっている。	

7. 補助系統に接続するフィーダー系統の利用・接続状況

	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
市町村名：	碧南市	西尾市	市町村名：
碧南駅バス停で市内巡回バス(くるくるバス)オレンジ及びパープルコースに乗継可能。ダイヤの考慮はしていない。	乗継拠点である一色町公民館でのいっちゃんバスとの接続や、デマンドタクシーとの接続などがわずかに見られるものの、全体の内訳としては徒歩や自転車での接続がほとんどである。		

通信欄 (この欄は関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県バス対策協議会事務局からの依頼事項についても記載する。)

※適宜、セルの結合を変えて利用してください

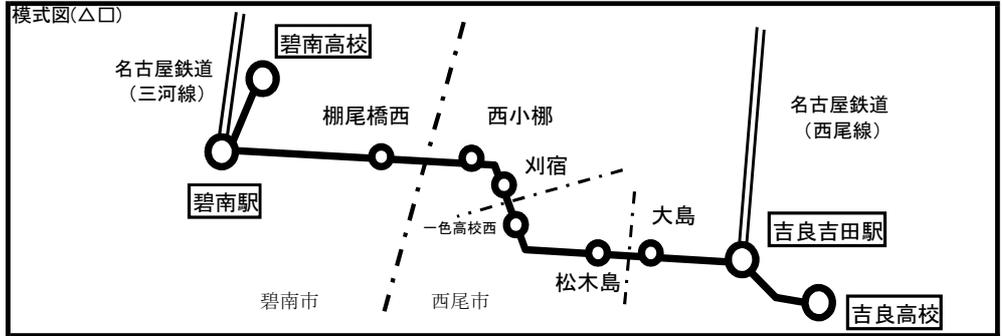
令和元年度補助系統別事業評価票(ふれんどバス②線)

1. 補助系統の概要(△)

Table with 7 columns: 系統名, 運営主体, 運行事業者, 区間, キロ程, 運行回数, 関係市町村. Rows include ふれんどバス②, (主系統), and (吉良高校始発).

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)

接続の状況(△□)
<接続する系統>
名古屋鉄道 三河線
名古屋鉄道 西尾線
名古屋鉄道 蒲郡線
<接続される系統>
名鉄東部交通バス 一色線
名鉄東部交通バス 寺津線
名鉄東部交通バス 平坂・中畑線
いこまいかー(デマンド乗合タクシー)
いっちゃんバス



2. R1年度の運行状況

事業実施の適切性
計画どおり運行されたか(△)
評価 計画どおりか。そうでない場合は理由
A 所定の事業計画通りの運行が実施された。

- 評価の基準
A → 事業計画どおりの運行回数が確保されている場合
B → 車両故障等運行事業者の責にすべき事由により、運休(一部区間の運休を含む)が生じた場合
C → 系統廃止に至る場合

《参考数値》 主要指標の推移(△)
Table with columns: 年度, 27年度, 28年度, 29年度, 30年度, 元年度. Rows: 年間利用者数【人】, 平均乗車密度(実績), 輸送量(実績), 収支率(実績).

目標・効果達成状況
Table with columns: 評価, 目標の達成状況(△), 運営主体の所見、理由分析、認識(△), 市町村の所見、理由分析、認識(□). Rows include evaluation A and B, and city opinions for 碧南市 and 西尾市.

複数市町村を跨ぐ系統としての役割
Table with columns: 指標(市町村を跨いでの利用), 利用状況及び所見(△), 住民の利用状況(□), 住民の利用状況(□), 住民の利用状況(□). Rows include 市町村を跨ぐ利用者数(△), 全利用者に占める率(△), and 特記事項.

《参考数値・情報》 その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報
運営主体《断面輸送量、競合系統合算断面輸送量、主な停留所乗降者数等》(△)
沿線市町村《沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載》(□)
停留所乗降者/日: 吉良高校162人、吉良吉田駅134人、一色町公民館59人、一色高校西164人、碧南駅163人、碧南高校101人

3. R1年度の取組状況

直近の事業評価結果(△)		運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
B	事業評価を踏まえた取組	沿線高校の利便性向上のため、鉄道との乗り継ぎを考慮したダイヤ改正を行った。	市町村名： 碧南市 市ウェブサイトで夏休み期間等のバス利用促進事業の周知を行った	市町村名： 西尾市 ・福祉分野と連携し高齢者を対象とした公共交通に関する出前講座を実施 ・総合時刻表を作成配布 ・個人に合わせた「マイ時刻表」の作成 ・Googleマップへの路線情報反映 ・「一色高校西」バス停横に待合スペース、ベンチを設置 ・バス利用者を対象とした沿線施設の割引サービスを実施 ・沿線高校の通学時間に合わせたダイヤ改正を実施	市町村名：
改善点とした事項(△) 利用者ニーズに合わせた対応や、昼間帯の利用を促進させる取り組みが必要。		沿線で行われる、お祭りなどのイベントに対応し、利用者の利便向上に努めている。	市のイベントでバスを展示し、乗り方講習や、子供用制服を着て写真撮影等を行った。	沿線の市長、経済団体、学校、地域住民、運行事業者による運行協議会を開催し、意見交換等を行った。	
関係者の連携等(△□) 事業者と西尾市、碧南市との情報共有の実施。	その他の取組				

4. 今後の課題

課題と認識している事項			
運営主体(△)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
通勤・通学時間帯に利用が集中している	市町村名： 碧南市 市補助金額の算定について、運営主体の経営努力が反映されるような仕組みが必要である。また、日中の利用客の増加を促すような取組が必要である。	市町村名： 西尾市 朝夕の通勤・通学時間帯以外での利用が少ない。地域の関心が高くないため、地域住民を巻き込んだ取組みによりマイバス意識を高めていきたい。	市町村名：

5. 今後の取組

課題に対応した取組、その他の利便性の向上、利用促進の取組				
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
R2年度、R3年度に行う取組	通勤・通学時間帯に利用が集中することから、ICカードの導入を図り乗降時間の短縮による利便性向上を図りたい	市町村名： 碧南市 駐輪場の場所や割引制度等について市ウェブサイトで紹介する。	市町村名： 西尾市 ・イベントや交通安全運動と連携した乗り方教室の実施 ・公共交通マップ、総合時刻表の作成 ・個人のおでかけに合わせたマイ時刻表の作成や乗り案内等の出前講座 ・ICカードやバスロケの導入 ・増加傾向にある外国籍住民を対象にした多言語対応のパンフレット配布	市町村名：

注. 評価にB、Cがある系統(市町村にあっては、目標の達成状況に関する評価がB、C)、又は平均乗車密度が3.0を下回る系統については、具体的な取組内容と収支率の目標値を記載すること。

6. 地域公共交通網形成計画に記載した補助系統の目標と評価

	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
目標	市町村名： 碧南市 未策定	市町村名： 西尾市 ふれんどバス全体の年間利用者数270,000人	市町村名：
自己評価		碧南高校への延伸や沿線高校の時間割に合わせたダイヤ改正等の利便性向上により、通学定期利用者の底上げにつながっており、安定的に300,000人程度の利用が見込める路線となっている。	

7. 補助系統に接続するフィーダー系統の利用・接続状況

	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
市町村名：	碧南市	西尾市	市町村名：
碧南駅バス停で市内巡回バス(くるくるバス)オレンジ及びパープルコースに乗り継ぎ可能。ダイヤの考慮はしていない。 碧南高校バス停でくるくるバス(市役所バス停)全コース(4コース)に乗り継ぎ可能。ダイヤの考慮はしていない	乗継拠点である一色町公民館でのいっちゃんバスとの接続や、デマンドタクシーとの接続などがわずかに見られるものの、全体の内訳としては徒歩や自転車での接続がほとんどである。		

通信欄 (この欄は関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県バス対策協議会事務局からの依頼事項についても記載する。)

※適宜、セルの結合を変えて利用してください

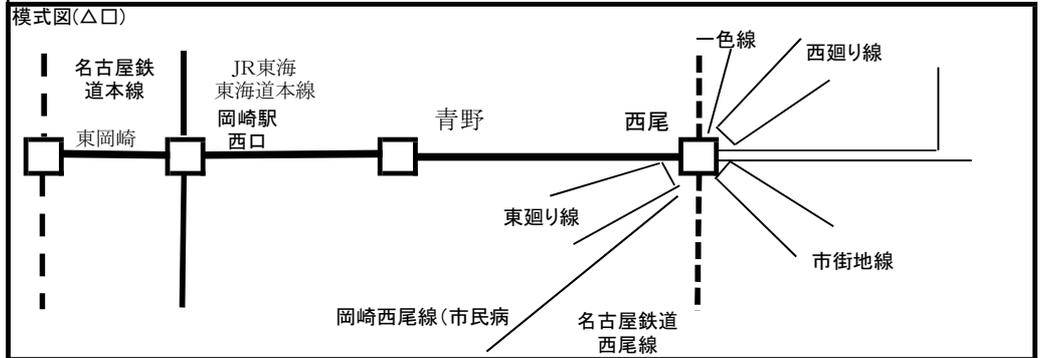
令和元年度補助系統別事業評価票(岡崎・西尾線)

1. 補助系統の概要(Δ)

Table with 7 columns: 系統名, 運営主体, 運行事業者, 区間, キロ程, 運行回数, 関係市町村. Rows include 岡崎西尾線 and 青野経由.

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)

接続の状況(Δ□)
<接続する系統>
名古屋鉄道名古屋本線
名古屋鉄道西尾線
JR東海東海道本線
名鉄バス
名鉄東部交通バス岡崎西尾線(市民病院)
<接続される系統>
名鉄東部交通バス 平坂中畑線、寺津線、一色線
西尾市六万石ぐるりんバス市街地線、東廻り線、西廻り線
いこまいかー(デマンド型乗合タクシー)



2. R01年度の運行状況

事業実施の適切性
計画どおり運行されたか(Δ)
評価 計画どおりか。そうでない場合は理由
A 補助対象期間の開始日から連休もなく、所定の事業計画どおりの運行が実施されている。

- 評価の基準
A → 事業計画どおりの運行回数が確保されている場合
B → 車両故障等運行事業者の責にすべき事由により、連休(一部区間の運休を含む)が生じた場合
C → 系統廃止に至る場合

《参考数値》 主要指標の推移(Δ)
Table with 6 columns: 年度, 27年度, 28年度, 29年度, 30年度, 元年度. Rows include 年間利用者数, 平均乗車密度, 輸送量, 収支率.

目標・効果達成状況

Table with 4 columns: 評価, 目標の達成状況(Δ), 運営主体の所見、理由分析、認識(Δ), 市町村の所見、理由分析、認識(□). Includes target values and analysis for 2019.

複数市町村を跨ぐ系統としての役割

Table with 5 columns: 指標(市町村を跨いでの利用), 利用状況及び所見(Δ), 住民の利用状況(□), 住民の利用状況(□), 住民の利用状況(□). Includes user numbers and regional impact.

《参考数値・情報》 その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報

Table with 2 columns: 運営主体(断面輸送量、競合系統合算断面輸送量、主な停留所乗降者数等)(Δ), 沿線市町村(沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載)(□). Includes boarding/alighting statistics.

3. R01年度の取組み状況

直近の事業評価結果(△)	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
A	事業評価を踏まえ た取組	沿線地域での催事及び道路状況についての情報収集に努め、定時運行の確保を図った。	市町村名： 岡崎市 公共交通マップの作成・配布を行うとともに、市内イベント等での乗り方教室及び近隣市町のバスマップの配布等を行い、公共交通に関する情報提供を行った。	市町村名： 西尾市 ・福祉分野と連携し高齢者を対象とした公共交通に関する出前講座を実施 ・総合時刻表を作成配布 ・個人に合わせた「マイ時刻表」の作成 ・Googleマップへの路線情報反映
改善点とした事項(△) 利用実態に見合った適切な運行計画を実施し、利用者の利便向上に努めた。		沿線市町で行われる公共交通イベントに参画し、利用促進を図った。		学生を対象にどの区間でも月3,000円で通学できる「スクールパス」を発行し、本来の通学定期金額との差額を補助している。
関係者の連携等(△□) 年に数回、事業者と岡崎市・西尾市とそれぞれ地域公共交通会議を開催	その他の取組	沿線市町で行われる公共交通イベントに参画し、利用促進を図った。 経路検索事業者（NAVITIME）との提携による利用者の利便性向上を図っている。		

4. 今後の課題

課題と認識している事項			
運営主体(△)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
減少傾向にあるので、その対策の一つとして、利用者の利便のため定時運行の確保が必要である。道路状況により定時運行に支障をきたすこともあった。	市町村名： 岡崎市 利用者等減少傾向にあるので、今後も継続して現在の取組みを行うとともに、新たな利用促進策を実施していく必要がある。	市町村名： 西尾市 本市コミュニティバスが一部区間で重複しており、日中は競合する運行となってしまっている。 効果的な利用促進を行うため、乗降者数以上の詳細な利用状況の把握分析が必要。	市町村名：

注. 評価にB、Cがある系統、又は、輸送量が15人を下回る系統については、特に念入りに課題を探索すること。

5. 今後の取組

課題に対応した取り組み、その他の利便性の向上、利用促進の取り組み				
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
R2年度、R3年度に行う取組	利用者の利便が向上する運行に努めていく。定時運行確保のため、道路状況の把握に努め、沿線市町とも協議をしていきたい。JR岡崎駅南部に平成32年4月に開業予定の総合病院分院への乗り入れに関して、今後の道路整備計画及び利用者の交通需要に対応した適確な運行計画を検討し実施していきたい。	市町村名： 岡崎市 公共交通マップの作成・配布、市内イベント等での乗り方教室及び近隣市町のバスマップの配布等、現在実施している取組みを継続して行っていく。また利用促進イベント時の事業内容や周知方法等を見直し、より良い取組みとなるように検討していく。	市町村名： 西尾市 ・市内区間の均一運賃化や共通一日券によりコミバスとの運賃体系の統一を図る ・イベントや交通安全運動と連携した乗り方教室の実施 ・公共交通マップ、総合時刻表の作成 ・個人のおでかけに合わせたマイ時刻表の作成や乗り案内等の出前講座 ・増加傾向にある外国籍住民を対象にした多言語対応のパンフレット配	市町村名：

注. 評価にB、Cがある系統(運営主体以外にあっては、目標の達成状況に関しての評価がB、C)、又は、輸送量が15人を下回る系統については、特に詳しく記載すること。

注. 予算の都合等から明言ができないときは、「○○の制約があるが(○○の検討を要するが)○○の取り組みを行っていきたくと考えている」等や「○○の取り組み(詳細は未定であるが、例えば○○のような取り組み)を行っていきたくと考えている」等と記載すること。

6. 地域公共交通網形成計画に記載した補助システムの目標と評価

	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
目標	市町村名： 岡崎市 収支率50%以上 1便当り利用者数15人～20人/便	市町村名： 西尾市 名鉄東部交通バス全路線の年間利用者数の現状維持	市町村名：
自己評価	完年度実績では収支率が77.8%、1便当り利用者数が16.9人であり、どちらの基準も満たしている。さらなる利用促進のため、継続して現在の取組みを行うとともに、新たな利用促進策等検討していく。	安価な「スクールパス」により通学利用の安定確保ができており、通勤定期とあわせて長期的な減少傾向は解消されてきた。	

7. 補助システムに接続するフィーダーシステムの利用・接続状況

沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
市町村名：	市町村名： 西尾市	市町村名：
	主に西尾駅で他路線と接続しており、岡崎市内の駅や商業施設などへの乗継利用が見られる。また、市東部地区ではデマンドタクシーの接続先となっている。	

通信欄 (この欄は、関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県協議会事務局からの依頼事項についても記載する。)

令和元年度補助系統別事業評価票(岡崎・西尾線)

1. 補助系統の概要(Δ)

Table with 7 columns: 系統名, 運営主体, 運行事業者, 区間, キロ程, 運行回数, 関係市町村. Rows include 岡崎西尾線 and 西尾市民病院経由.

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)

接続の状況(Δ□) and 模式図(Δ□). Includes a list of connecting systems and a schematic diagram of the line connecting to JR East and other local lines.

2. R01年度の運行状況

事業実施の適切性, 計画どおり運行されたか(Δ), 評価, 評価の基準, and 《参考数値》 主要指標の推移(Δ) table with columns for 年度, 年間利用者数, 平均乗車密度, 輸送量, 収支率.

目標・効果達成状況 table with columns for 評価, 目標の達成状況(Δ), 運営主体の所見, 理由分析, 認識(Δ), 市町村の所見, 理由分析, 認識(□).

複数市町村を跨ぐ系統としての役割 table with columns for 指標(市町村を跨いでの利用), 利用者数(Δ), 全利用者に占める率(Δ), 特記事項, 利用状況及び所見(Δ), 住民の利用状況(□).

《参考数値・情報》 その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報 table with columns for 運営主体(断面輸送量, 競合系統合算断面輸送量, 主な停留所乗降者数等)(Δ), 沿線市町村(沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載)(□).

3. R01年度の取組み状況

直近の事業評価結果(△)	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
A	事業評価を踏まえた取組 沿線地域での催事及び道路状況についての情報収集に努め、定時運行の確保を図った。	市町村名： 岡崎市	市町村名：西尾市	市町村名：
改善点とした事項(△) 利用実態に見合った適切な運行計画を実施し、利用者の利便向上に努めた。		公共交通マップの作成・配布を行うとともに、市内イベント等での乗り方教室及び近隣市町のバスマップの配布等を行い、公共交通に関する情報提供を行った。	・福祉分野と連携し高齢者を対象とした公共交通に関する出前講座を実施 ・総合時刻表を作成配布 ・個人に合わせた「マイ時刻表」の作成 ・Googleマップへの路線情報反映	
関係者の連携等(△□) 年に数回、事業者と岡崎市・西尾市とそれぞれ地域公共交通会議を開催	その他の取組 沿線市町で行われる公共交通イベントに参画し、利用促進を図った。 経路検索事業者（NAVITIME）との提携による利用者の利便性向上を図っている。		学生を対象にどの区間でも月3,000円で通学できる「スクールパス」を発行し、本来の通学定期金額との差額を補助している。	

4. 今後の課題

課題と認識している事項			
運営主体(△)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
減少傾向にあるので、その対策の一つとして、利用者の利便のため定時運行の確保が必要である。道路状況により定時運行に支障をきたすこともあった。	市町村名： 岡崎市 収支率等改善している部分もあるが、今後も更なる利用促進に向け、継続して現在の取組を行うとともに、新たな利用促進策を実施していく必要がある。	市町村名： 西尾市 本市コミュニティバスが一部区間で重複しており、日中は競合する運行となっている。 効果的な利用促進を行うため、乗降者数以上の詳細な利用状況の把握分析が必要。	市町村名：

注. 評価にB、Cがある系統、又は、輸送量が15人を下回る系統については、特に念入りに課題を探すこと。

5. 今後の取組

課題に対応した取り組み、その他の利便性の向上、利用促進の取り組み				
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
R2年度、R3年度に行う取組	利用者の利便が向上する運行に努めていく。定時運行確保のため、道路状況の把握に努め、沿線市町とも協議をしていきたい。JR岡崎駅南部に平成32年4月に開業予定の総合病院分院への乗り入れに関して、今後の道路整備計画及び利用者の交通需要に対応した適確な運行計画を検討し実施していきたい。	市町村名： 岡崎市 公共交通マップの作成・配布、市内イベント等での乗り方教室及び近隣市町のバスマップの配布等、現在実施している取組を継続して行っていく。また利用促進イベント時の事業内容や周知方法等を見直し、より良い取組みとなるように検討していく。	市町村名： 西尾市 ・市内区間の均一運賃化や共通一日券によりコミバスとの運賃体系の統一を図る ・イベントや交通安全運動と連携した乗り方教室の実施 ・公共交通マップ、総合時刻表の作成 ・個人のおでかけに合わせたマイ時刻表の作成や乗り方案内等の出前講座 ・増加傾向にある外国籍住民を対象にした多言語対応のパンフレット配	市町村名：

注. 評価にB、Cがある系統(運営主体以外にあっては、目標の達成状況に関しての評価がB、C)、又は、輸送量が15人を下回る系統については、特に詳しく記載すること。

注. 予算の都合等から明言ができないときは、「○○の制約があるが(○○の検討を要するが)○○の取組みを行っていきたくて考えている」等や「○○の取組み(詳細は未定であるが、例えば○○のような取組み)を行っていきたくて考えている」等と記載すること。

6. 地域公共交通網形成計画に記載した補助システムの目標と評価

	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
目標	市町村名： 岡崎市 収支率50%以上 1便当り利用者数15人～20人/便	市町村名： 西尾市 名鉄東部交通バス全路線の年間利用者数の現状維持	市町村名：
自己評価	元年度実績では収支率が69.0%、1便当り利用者数が9.5人であり、1便当り利用者数が基準を下回っている。今後も継続して現在の取組みを行うとともに、新たな利用促進策等検討していく必要	安価な「スクールバス」により通学利用の安定確保ができており、通勤定期とあわせて長期的な減少傾向は解消されてきた。	

7. 補助システムに接続するフィーダーシステムの利用・接続状況

	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
市町村名：	市町村名： 西尾市	市町村名：	
	主に西尾駅で他路線と接続しており、市民病院、西尾東高校や岡崎駅への乗継利用が見られる。また、市東部地区ではデマンドタクシーの接続先となっている。		

通信欄 (この欄は、関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県協議会事務局からの依頼事項についても記載する。)

※適宜、セルの結合を変えて利用してください

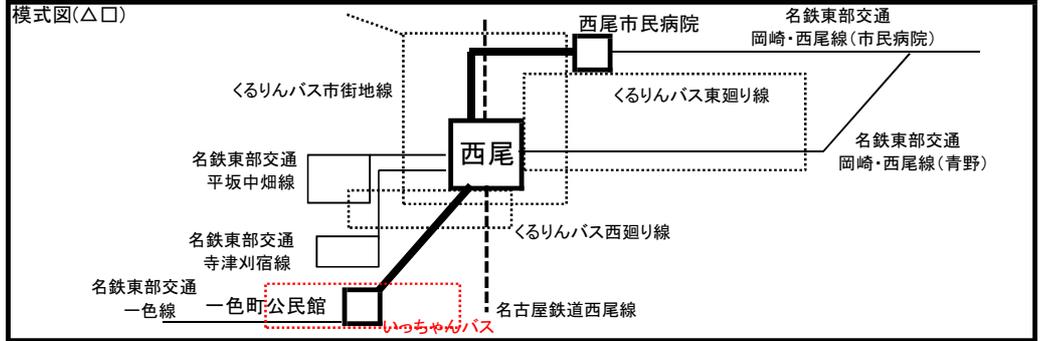
令和元年度補助系統別事業評価票(一色線線)

1. 補助系統の概要(Δ)

Table with 7 columns: 系統名, 運営主体, 運行事業者, 区間, キロ程, 運行回数, 関係市町村. Rows include '一色' and '細系統' (一色(福地), 一色(西尾)).

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)

接続の状況(Δ□)
<接続する系統>
名古屋鉄道西尾線
名鉄東部交通バス 岡崎・西尾線(市民病院・青野)
<接続される系統>
名鉄東部交通バス 平坂中畑線、寺津線
西尾市六万石ぐるりんバス市街地線、東廻り線、西廻り線
いっちゃんバス



2. R01年度の運行状況

事業実施の適切性
計画どおり運行されたか(Δ)
評価 計画どおりか。そうでない場合は理由
A 補助対象期間の開始日から休日もなく、所定の事業計画どおりの運行が実施されている。

評価の基準
A → 事業計画どおりの運行回数が確保されている場合
B → 車両故障等運行事業者の責にすべき事由により、運休(一部区間の運休を含む)が生じた場合
C → 系統廃止に至る場合

《参考数値》 主要指標の推移(Δ)
Table with 6 columns: 年度, 27年度, 28年度, 29年度, 30年度, 元年度. Rows include 年間利用者数【人】, 平均乗車密度(実績), 輸送量(実績), 収支率(実績).

目標・効果達成状況

Table with 4 columns: 評価, 目標の達成状況(Δ), 運営主体の所見、理由分析、認識(Δ), 市町村の所見、理由分析、認識(□). Includes '目標' (77,590) and '結果' (87,406).

複数市町村を跨ぐ系統としての役割

Table with 5 columns: 指標(市町村を跨いでの利用), 利用状況及び所見(Δ), 住民の利用状況(□), 住民の利用状況(□), 住民の利用状況(□). Includes '市町村を跨ぐ利用者数(Δ)' (6,863 人/月) and '全利用者に占める率(Δ)' (94.2 %).

《参考数値・情報》 その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報

Table with 2 columns: 運営主体(断面輸送量、競合系統合算断面輸送量、主な停留所乗降者数等)(Δ), 沿線市町村(沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載)(□). Includes data for '西尾市民病院停留所乗降者数' (約10人/日).

3. R01年度の取組み状況

直近の事業評価結果(△)	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
A	事業評価を踏まえた取組 沿線地域での催事及び道路状況についての情報収集に努め、定時運行の確保を図った。	市町村名: 西尾市	市町村名:	市町村名:
改善点とした事項(△) 利用実態に見合った適切な運行計画を実施し、利用者の利便向上に努めた。		・福祉分野と連携し高齢者を対象とした公共交通に関する出前講座を実施 ・総合時刻表を作成配布 ・個人に合わせた「マイ時刻表」の作成 ・Googleマップへの路線情報反映		
関係者の連携等(△□) 年に数回、事業者と西尾市と地域公共交通会議を開催	その他の取組 経路検索事業者(NAVITIME)との提携による利用者の利便性向上を図っている。	学生を対象にどの区間でも月3,000円で通学できる「スクールバス」を発行し、本来の通学定期金額との差額を補助している。		

4. 今後の課題

課題と認識している事項			
運営主体(△)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
長期的にみれば減少傾向にあるので、その対策の一つとして、利用者の利便のため定時運行の確保が必要である。道路状況により定時運行に支障をきたすこともあった。	市町村名: 西尾市 朝の通学時間帯には満員に近い利用があるが、日中の定期外利用が少ないため利用促進を図る必要がある。	市町村名:	市町村名:

注. 評価にB、Cがある系統、又は、輸送量が15人を下回る系統については、特に念入りに課題を探すこと。

5. 今後の取組

課題に対応した取り組み、その他の利便性の向上、利用促進の取り組み				
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
R2年度、R3年度に行う取組	西尾市の一色地区の路線バス乗継拠点整備事業に伴い、H29.10.1より三河一色停留所を一色町公民館へ移設しふれんどバス及びびいっちゃんバスとの乗継が可能となった。今後の利用状況等を踏まえて利便性の向上に努めていく。	市町村名: 西尾市 ・市内区間の均一運賃化や共通一日券によりコミバスとの運賃体系の統一を図る ・佐久島渡船との接続を強化 ・イベントや交通安全運動と連携した乗り方教室の実施 ・公共交通マップ、総合時刻表の作成 ・個人のおでかけに合わせたマイ時刻表の作成や乗り案内等の出前講座 ・一色町公民館での乗継利便性の向上 ・増加傾向にある外国籍住民を対象にした多言語対応のパンフレット配	市町村名:	市町村名:

注. 評価にB、Cがある系統(運営主体以外にあっては、目標の達成状況についての評価がB、C)、又は、輸送量が15人を下回る系統については、特に詳しく記載すること。

注. 予算の都合等から明言ができないときは、「○○の制約があるが(○○の検討を要するが)○○の取り組みを行っていきたいと考えている」等や「○○の取り組み(詳細は未定であるが、例えば○○のような取り組み)を行っていきたいと考えている」等と記載すること。

6. 地域公共交通網形成計画に記載した補助系統の目標と評価

	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
目標	市町村名: 西尾市	市町村名:	市町村名:
自己評価	名鉄東部交通バス全路線の年間利用者数の現状維持 安価な「スクールバス」により通学利用の安定確保ができており、通勤定期とあわせて長期的な減少傾向は解消されてきた。		

7. 補助系統に接続するフィーダー系統の利用・接続状況

沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
市町村名: 西尾市	市町村名:	市町村名:
乗継拠点とした一色町公民館においていっちゃんバスとのダイヤ接続を図っており、一色地区から西尾市中心部へ向かう乗継利用が見られる。		

通信欄 (この欄は、関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県協議会事務局からの依頼事項についても記載する。)

※適宜、セルの結合を変えて利用してください